

2015年3月発行

Arche21

鹿児島県立沖永良部高等学校【進路通信】

あなたの能力に
限界を加えるものは
他ならぬ あなた自身の思い込み
ナポレオン・ヒル

明日から春休み

月日が経つのは早いもので、あっという間に1年間が過ぎました。明日から春休みになりますが、春休みは1年間のまとめと新学年の準備をするには一番良い時期です。4月に良いスタートが切れるようしっかりと準備をしましょう。

★1・2年生普通科編 参考：Benesse マナビジョンHPより

Q. 春休みは何をすればいいのですか？

ANS. まずは学校の宿題をきちんとすることです。

次に試験の結果を確認して、苦手科目・分野をチェックしましょう！

模試や定期考査の復習は弱点克服のための最良の勉強法です。

間違えた部分の問題をコピーしてノートに貼り、解き直して理解できるまでやり直しましょう。

やり直すことで自分の弱点を知り、二度と間違わないようになりますよ。

中でも、定期的実施される模試をうまく活用した“勉強サイクル”を作ること、受験生に必要な“勉強サイクル”も身に付きます。模試を活用することで

* 目標が立てやすく受験勉強のペースメイクがしやすい。

「次の模試までに〇〇をしっかりとやろう！」など

* 志望校と自分の実力の差や弱点がひと目でわかる

「志望校A判定まであと〇〇点！」

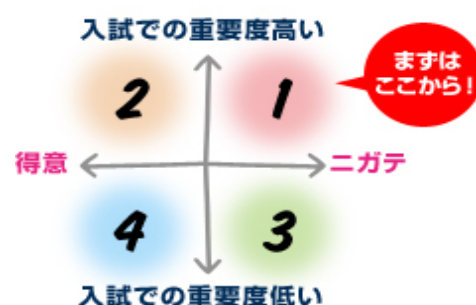
「〇〇分野の克服が課題」など

皆さんも、“良い勉強サイクル”を今から身につけましょう。

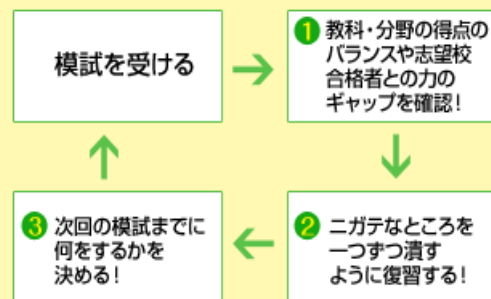
★1・2年生商業科編

1～2月に実施された、簿記検定・情報処理検定の結果はどうだったでしょうか？全商協会の検定試験は、高等学校学習指導要領に示されている内容に準拠して出題されています。生徒の皆さんが、学校の授業で、まじめに勉強したり自学自習したりすれば、各自が目標とする検定試験に合格することができる検定です。

検定試験合格の目標を持って勉強すれば、学校の学習にも熱意や、やりがい生まれてきます。中には、たくさんの種目の検定試験、しかも上級に合格することを目指して、意欲的に授業や自宅学習に取り組んでいる生徒が大勢います。長い歴史と輝かしい実績をもつ全商協会の検定試験は、広く社会的にも認められています。今回おもしろくない結果だった人もいるかもしれませんが、今回で終わりではありません。6月に実施される検定で合格できるように今のうちから努力していきましょう。



できる受験生の“勉強サイクル”



☆福岡教育大学



芸術課程 書美コース 合格☆

就職を考えていた私は、2年生の終わり頃、何となく書いた模試の「京都橘大学」がC判定で、「大学もアリかな?」と思いはじめ、恩師の谷先生の勧めもあって京都橘大学を目指すことにしました。3年生になり水口先生と出会い、「書道で大学に進みたい」と相談すると全国の国立大学を紹介してくださり、担任からも三者面談で福岡教育大学をすすめられたことで、受験を決めました。私はその日から机に向かうようになりました。

手応えもないまま努力を続けて夏が終わり、秋になってもまだまだ課題が多く「俺センスないな」と落ち込むことも多くありました。学校のテスト・面接練習・書道の追い込み…これらがいっぺんにのしかかってきた推薦入試直前、ついに気持ちが崩壊して水口先生に「書道が嫌だ。もうしたくない」と伝えました。しかし先生は失望することなく「良かったね。ここまで自分を追い込むことができ、これはすごく大事な事だ」と言い、私は切り換えて受験に行くことができました。しかし、結果は不合格。自分でも満足できる内容ではなかったため、「絶対、一般入試でリベンジしてやる」と誓い、センター試験に向けて決意をあらたにしました。

この頃から書道の実技は急上昇、マーク模試の成績もC判定近くまで伸びてきて、これまでの積み重ねてきた努力が形になるようになってきました。ところが、センター試験の結果は奮わず、E判定…。愕然としました。しかし、諦めたくない強い思いがあって、センター500点+実技500点+書道理論500点なら逆転して合格できると信じて出し切ることにしました。

毎日、書いて書いて書きまくり、眠かろうが書きたくなかろうが、ひたすら書きました。試験当日も、いい緊張感の中で楽しく書けました。作品は6点とも手応えがありました。理論は空欄補充が30問ほど、鑑賞して200字の論述が1題で非常に難しい内容でした。

合格した今、努力することの大切さと、自分を支えてくれ周りの人たちへの感謝を身にしみて感じています。国公立大は眼中にない人も、ぜひ挑戦してみてください。かなり辛いですが乗り越えると簡単には負けない、強い人間になれると思います。

☆北海道教育大学

地域学校教育専攻 合格☆

お正月が来るのがこんなに恨めしいと思ったのは生まれて初めてだった。カレンダーを見なくてもセンター試験までの日数が分かる。嫌な汗が出てくる…。「あれ?俺こんなに数学でできなかったけ?」高3の6月、部活を引退して受験勉強にシフトした頃だ。少し難しい問題になると手が止まる。模試も低調。苦手だと思えば思うほど授業も分からなくなった。挽回しようと夏休みは数学最優先で臨んだものの、どの問題もとっかかりさえ分からず「これがあと半年で解けるようになるのだろうか?」心の中は不安一色だった。

数学が足を引っ張っている。このままじゃヤバい。演習の授業中に「?」と思ったらすぐ質問。授業後も職員室を訪ねて質問。友人にも質問。できない自分をさらけ出すことに最初は恥ずかしさがあったが勇気を出して声をかけ続けた。質問するたびに明らかになる自分の力不足や友人との差も気にしている余裕はなかった。

毎日どころか毎時間襲ってくる「逃げたい」気持ちを踏みとどまらせてくれたのは受験生として共に泣き笑いしてきたクラスメイトの存在だった。顔を見れば分かる。誰もがロクに「もう嫌だ」と言いながら、それぞれの夢をつかむために必死に机にかじりついていることを。辛いのは自分だけじゃない。このメンバーと一緒に頑張れるのは、一生で今だけ。引き下がるはずがない。

ギリギリまで知識を詰め込み、臨んだセンター試験本番。結果は惨敗であった…。後日、担任との面談が行われた。出願校を決めるためだ。しかし、可能性のある大学を探すことは非常に困難だった。正直、涙で面談にならなかった。夜も、先行きの見えない自分の将来に対する不安と恐怖で眠れない日が続いた。

そして二次試験。僕は小論文一本で挑戦することを決意した。1ヶ月間ひたすら書き続けた。作文用紙何枚書いたらろうか。時々、積み重なる作文用紙を見てニヤける自分がそこにはいた。やれることは全てやった。

合格は未だに信じられないが、諦めなかったことだけは確信している。

